

みて！

色が落ちてくる！

伊那市立西箕輪南部保育園（長野県伊那市）

[3歳]

保育園の庭を囲うように桜の木が生えているので、入園当初、子どもたちは花びらで遊んでいた。5月末、落ちた実を集めたりままごとの飾り付けに使ったりしていた。そして、潰すと色が付くようになった桜の実やヨモギで色水作りに親しんできた。

そこで、色水を通して色の不思議さや面白さを広げられないかと「食紅」を提供した。



	子どもの姿・言葉	環境構成・保育者の援助
食紅の色水	<p>・不思議そうな顔をして、「なに?」「すごい!」「綺麗!」などと言う。</p> <p>・食紅が落ちていくことによって色が変わる様子を見て、</p> <p>①「色が落ちてくるよ!」と言う。</p> <p>②「私もやってみたい!」「やりたいやりたい!」と言い、ペットボトルに水を汲んできて、好きな色の食紅を入れていく。①「<u>落ちてくる落ちてくる!</u>」と言う。</p> <p>③「あれ?僕のストンって落ちちゃった!」「でも綺麗だよ!」</p> <p>・ずっと眺めていた子が「(ペットボトルを)振っていい?」と言い、ガシャガシャと振り出すと、それを見ていた周りの子に伝播し、次々とペットボトルを振り出す。</p> <p>「やったー!」「すぐ混ざっちゃった」「うん!」「ジュースできた!」</p>	<p>・赤と緑の2色の食紅を用意する。</p> <p>・「魔法の粉(食紅)で色水にするよ!」と言い、子どもたちが見たことの無い素材「食紅」での色水作りを知らせる。</p> <p>・保育者がペットボトルに水と食紅を入れる。</p> <p>・「ほんとだぁ、落ちてるね」「不思議だねえ」と共感する言葉をかける。</p>
色を混ぜる	<p>混ぜ終わった子が、他の色のペットボトルを見て</p> <p>④「(緑の色水に)赤も入れたい!」「私も!」「僕も!」と言う。</p> <p>⑤「木みたい!」「血が広がった!」「チョコレートみたい!」と言う。</p>	<p>・「面白そうだね」「やってみる?」と言い様子を見る。</p> <p>・子どもと一緒に、色が混ざる様子に注目する。</p> <p>・「どうだった?」と言い、子どもの言葉を引き出す。</p>
ライトアップ	<p>ペットボトルを覗く子、上から眺める子などがいて、「くらーい」「こわーい」「綺麗だねえ」と言う。</p> <p><暗い部屋>で<火を使う>という秘密めいた雰囲気から、内緒話をするほほえましい姿も見られた。</p>	<p>・ロウソクを中央に置き、周りに色水の入っているペットボトルを並べる。</p> <p>・部屋を暗くし、火を灯す。</p>
色を混ぜる	<p>・思い思いに色水を作る。</p> <p>・2色混ぜて「もっと入れたい」と、3色目を入れる子どもがいる。</p> <p>・「また茶色だ」「お茶みたい」などできた色の話しをする。</p> <p>⑥「先生見て!」とペットボトルを横にして目に当てている。</p> <p>・やっている子を見て次々と子どもたちが真似をする。</p>	<p>・赤、緑、黄色の3色の食紅を用意する。</p> <p>・「わぁ、面白い!目が大きくなってるよ」と言う。</p>

考察

- ・初めての食紅を使った色水遊びをしていく中で、他の子どもがやっているところを見て興味を示す姿(②④)から、子どもたちの**好奇心や関心の高さ**を感じた。
- ・子どもたちは**周りの様子**をよく観察しており、自分と他の子どものものとの**違い**に気付いていた。(③)
- ・「色が落ちてくる」といった表現から、子どもの**素直な感じ方**に感心した。(①⑤) こういった子ども自身が率直に感じ、考えて出てきた言葉を大事にしていきたい。
- ・色を混ぜようとしたり(①)、ペットボトルに目を当てたりする(⑥)など“これもやってみよう”“こうしたらどうなるんだろう”という、3歳児の**考える力や思いつく力**を感じた。
- ・ペットボトルを目に当てている場面で、保育者は「目が大きくなった」ことに注目した。子どもの立場で考えると、色水を通して「色の付いた世界」や「不思議に歪んだ世界」など、**子どもの目線で見た面白さ**があったように思う。子どもの気持ちに寄り添って、その思いを他の子どもたちに代弁することができていたら、そこから遊び方の幅など、新しい広がりがあったのではないだろうか(⑥)。

ポイント

子どもたちは園庭の草花や木の実などを使って、思い思いに色水遊びを楽しんでいるので、保育者が提示した食紅による色の鮮やかさや色の出方、混ざり方などに、新鮮さを感じて感動し、興味が深まっています。このように、色の変化や色彩の違いに気付いている一つ一つのことを、友達や保育者に伝える言動が引き出されている姿から、「科学する心」が育まれる体験を読み取ることができます。

<科学する心が見える — 注目する> 「みて！」

子どもたちが、食紅により水に色が付いていく様子に注目しています。

- ① 「色が落ちてくるよ！」
- ② 「私もやってみたい！」 「やりたいやりたい！」
ペットボトルに水を汲んできて、好きな色の食紅を入れる。
- ③ 「落ちてくる落ちてくる！」
- ④ 「あれ？僕のストンって落ちちゃった」
- ⑤ 「でも綺麗だよ！」



ここから見える

- ・桜の実などの色水とは、水の色が変わっていく様子が違うことを感じている。
- ・「落ちていく」という色の変化の状況にも関心を寄せている。①
- ・「ストンって落ちた」という変化や動きの速さに注目している。③
- ・「きれい」という言葉で、鮮やかさや透明感など水の色に感じた鮮明さを表している。⑤
- ・「落ちる」「ストン」など、見た様子を言葉にして表現している。気付いたことを、「意味のあること」だと意識して、伝えようとしている。
- ・友達の注目していることや言葉に興味をもち、「やりたい」と声に出して自発的に遊び始めている。必要な物や水を入れるなどの手順を、3歳児なりに把握して行動している。②

このように、科学する心が育まれる体験が見えてきます。

こうした体験が引き出されたのは、桜の実やヨモギで自分でいろいろな色水の作り方をしたり、できた色を楽しんだりしていることが生きているのではないかと考えられます。

子どもの遊びに“注目する”ことで科学する心が躍動し、色を混ぜる楽しみ方だけでなく、できた色水でライトアップしたり、光にかざしてみたりする遊びになりました。感性を發揮して、様々ななかかわり方をし“食紅だからこそできた透明感のある色”を楽しんでいます。

この事例では、「食紅」が鍵になる教材になっていますが、他にはどのような教材が考えられるでしょうか？

園庭や近隣の公園、教材室の中に、子どもから気付いたり、試したりすることができる教材はあるでしょうか？

こうして、色水になっていく様子に興味をもつことで、様々な教材で試行錯誤を重ねて探求を深める遊びに展開することが期待できます。「色が変わる」「色が付く」「溶ける」という現象にも興味が広がるかもしれません。そのためには、子どもたち自身で発想し自由に扱える教材や環境を保障できることが必要です。

視点を
変えて